

令和7年度 全国学力・学習状況調査 指導方法等の改善計画

呉市立広南小学校
(広南中学校区)

全国平均値との差

| | 国語 | 算数 | 理科 |
|----------------|-------|-------|-------|
| 呉市教育振興基本計画〈指標〉 | +6.0 | +5.0 | |
| 令和8年度 | - | - | - |
| 令和7年度 | +11.2 | +8.0 | +13.9 |
| 令和6年度 | +12.3 | +13.6 | - |
| 令和5年度 | +4.8 | +3.5 | - |
| 令和4年度 | +13.4 | +15.8 | +7.7 |

全国学力・学習状況調査の結果分析と今後の取組

◎…各学校 ◇…中学校区

| | |
|--|---|
| <p>国語</p> <p>言葉の特徴や使い方</p> <p>読むこと 情報の扱い方 我が国の言語文化 話すこと・聞くこと 書くこと</p> <p>●--- 全国平均 ■--- 県平均 ---× 本校</p> <p>本校 78 % 全国 66.8 % 県 69 %</p> | <p>重点課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ◎ 資料に書かれている複数の情報を関連付けて考えることに課題がある。 ◎ 複数の情報の中から、必要な情報を取捨選択することにも課題がある。 <p>【読むこと】設問③ 三(1) (平均正答率 46.7%)</p> <p>◇◎ 読み手により内容が伝わる表現の工夫や言葉や絵の効果的活用について考えることに課題がある。 【書くこと】設問② 二 (平均正答率 73.3%)</p> <p>改善の方策</p> <ul style="list-style-type: none"> ◎ 要旨を手掛かりとして必要な情報を収集したり、共通点や相違点に着目しながら論を進めたりすることができるようにする。 ◇◎ 資料から必要な文や言葉を引用したり、図表やグラフなどを用いたりする言語活動等を通して、自分の考えが読み手に伝わるような効果的な表し方を身に付ける。 ◇◎ 三角ロジック等を活用し、自分の考えを表現・推敲する力を付ける。 <p>検証</p> <ul style="list-style-type: none"> ◎ 全国学力 設問③ 三(1) (第5・6学年, 1月) 目標 80% → 結果 72% ◇◎ 全国学力 設問② 二の類似問題 (第5・6学年, 1月) 目標 80% → 結果 74% |
| <p>算数</p> <p>数と計算</p> <p>データの活用 図形 変化と関係 測定</p> <p>●--- 全国平均 ■--- 県平均 ---× 本校</p> <p>本校 66 % 全国 58.0 % 県 59 %</p> | <p>重点課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ◇◎ 棒グラフから必要な情報を読み取り、もとにする量の何倍になるのか、数量を関係付けて考えることに課題がある。 <p>【データの活用】設問① (1) (平均正答率 73.3%)</p> <ul style="list-style-type: none"> ◎ 「10%増量前」と「10%増量後」の容量について、百分率を倍に捉え直すことに課題がある。【変化と関係】設問④ (4) (平均正答率 26.7%) <p>改善の方策</p> <ul style="list-style-type: none"> ◇◎ 他教科においても、目的に応じてデータを比較・分析する活動を通して、データの特徴や傾向が捉えられるようにする。また、根拠を明確にしながら自分の考えを言葉や図と関連付けて説明できるようにする。 ◎ 数量の関係に関わる数学的活動を通して、関係図や数直線と式との関連や二つの数量を適切に比べられるようにする。 ◇◎ 類似問題に取り組み、問われていることを深く考えられるようにする。 <p>検証</p> <ul style="list-style-type: none"> ◇◎ 全国学力 設問① (1)の類似問題 (第5・6学年, 1月) 目標 80% → 結果 74% ◎ 全国学力 設問④ (4) (第5・6学年, 1月) 目標 80% → 結果 72% |
| <p>理科</p> <p>エネルギー 地球 粒子 生命</p> <p>●--- 全国平均 ■--- 県平均 ---× 本校</p> <p>本校 71 % 全国 57.1 % 県 59 %</p> | <p>重点課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ◎ 電気を通す物と通さない物、また電気を通す時と通さない時のつなぎ方について、実験の方法を具体的にイメージすることに課題がある。 <p>【物質・エネルギー】設問② (2) (平均正答率 46.7%)</p> <ul style="list-style-type: none"> ◇◎ 種子の発芽の結果から、関わる条件についての差異点や共通点をもとに、予想や仮説から新たな問題を見出し、自分の言葉で表現することに課題がある。【生命・地球】設問③ (4) (平均正答率 33.3%) <p>改善の方策</p> <ul style="list-style-type: none"> ◎ 予想を立てたり、実験結果をまとめたりする活動を通して、根拠を明確にしながら電気の回路のつくり方が理解できるようにする。 ◎ 他教科においても、複数の資料を用いて情報を比較・分類する力に加えて必要な情報を取捨選択できるようにする。 ◇◎ 問題解決や科学的な探求のプロセスを通して、学習した知識が活用できるようにする。 <p>検証</p> <ul style="list-style-type: none"> ◎ 全国学力 設問② (2) (第5・6学年, 1月) 目標 80% → 結果 72% ◇◎ 全国学力 設問③ (4)の類似問題 (第5・6学年, 1月) 目標 80% → 結果 70% |

【来年度に向けて】

全教科を通じて、考えの根拠となる理由を自分の言葉で説明したり、書いたりする習慣を身に付けていく必要がある。また、問題を深く読み解く力を付けるために、低学年段階から、朝の時間やドリルタイムを用いて、学力テスト形式の問題に慣れさせていく。